

八の至福—約束されている祝福（4）
義に飢え渴いている人の祝福

5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとにきた。 5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。 5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。 5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。 5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。 5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。 5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。 5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。 5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 5:11 わたしのために人々があなたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

はじめに

5 月 17 日からイエス様の美しさを八の至福を通して見えています。イエス様は唯一のこの教えを完全に実行した人、そして信者の一人一人の中で実現させて下さる祝福として私達に与えて下さいました。

今まで見て来たのを短く復習しますが、イエス様は誰よりも謙遜な人になったから、神様は高く上げて全ての主権を与えて下さっています。そして、その次に悲しみの人として人類の罪を自分の身に負って下さったから、今、罪の赦しによる最大の慰めをすべての信者に与えて下さいます。先週はイエス様の柔和な姿に習って自分の権利を神様に委ねる事によって心配と恐れを超えて神様の平安の中で生きる祝福を体験出来る話でした。今日は4番目の祝福です。5:6 「義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」

先週も言いましたが、聖書は聖書の一番の注解書ですから、まず山上の垂訓の中で八の至福のイエス様の解説を見て、そしてその上に聖書全体の中で同じ教えについて書いてある箇所も見て解釈することが大切です。6章の終わりの部分で心配の必要はないと言った後で革命的なイエス様の発言があります。

6:33 「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」 この革命的な言葉は4番目の祝福の意味を教えています。義に飢え渴いている人は神の国と神の義をまず第一に求める人です。イエス様は八の至福をその順番で山上の垂訓の教えによって具体的に説明して下さいます。

1. 価値観における最大の変化

5:6 「義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」

義に飢え渴いている人はイエス様によって既に罪を赦されて、イエス様を救い主として知る事によって価値観の最大の変化を体験しているから、更に神様の国とその義をもっと深く知りたい人です。イエス様に救われていない人はこの飢え渴きを体験しません。

マタイ 6:33 「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

価値観の最大の変化を体験していない限り、これを実行するのが不可能です。人間は自然にこの世の物を第一に求める心を持って生まれているから、最初に革命的な発言だと言ったのは、これを実行する事が出来る人の心の中の革命が起きているということです。心の中の革命は価値観の最大の変化を体験している意味です。イエス様は人に新しい心を与えられる唯一の救い主だから、このような革命的な発言が出来る方です。イエス様の十字架によって結ばれた新しい契約の中心的な約束を見て下さい。これはイエス様の全ての信者に与えられている祝福です。

エゼキエル書**36:26-27**「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。**36:27** わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。」

石の心という冷たい神の愛のない心を取り除き、代わりに肉の心を与える意味は神の愛のある暖かい心を与える、ということです。神の愛によって神のおきてと定めを守るようになります。私達はイエス様の救いによって律法の呪いから解放されて愛によって神様に従うようになります。

八の至福に書いてあるすべての祝福はイエス様の信者に与えられているから、自分のものにした人はまずイエス様の信者になってから始まります。

イエス様を信じて受け入れる全ての人の心に最大の価値観の変化が必ず起きます。イエス様が永遠に生きている神の一人子だと確信した時に、その瞬間に、その人の心が新しく生まれて神の子供として、最大の価値観の変化を経験します。この世の物の為の生き方を止められます。

コリント第二**5:15-17**「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。**5:16** ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。**5:17** だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

この箇所は神の子供として新しく生まれるすべてのイエス様の信者の心の中で起きる価値観の変化を説明しています。

15節でまずイエス様に対する見る目が変わります。「もはや自分の為生きるのではなく、自分の為死んでよみがえった方の為生きる為なのです。」キリストが実際に自分の為死んだ事と実際によみがえった永遠に生きておられる救い主だと知ったら、どんな人間でも変わります。自分でいくら頑張っても変わらない人はその時から、心の中から、新しく変えられて行きます。使徒パウロも自分の証としてこれを書きました。キリストの信者を迫害していたテロリストから最初の宣教師に変わって新約聖書の半分を近く書く人に変えられました。イエス様は今もそれと全く同じ働き方をしています。

ピリピ**3:7-8**。「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。**3:8** それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。」

自分の国の伝統を一番誇りにしてその為人を殺すところまで行ってしまったパウロはイエス様を個人の体験で知った時、キリストを知る素晴らしさと比べて、その一番大事だったものをゴミと思うようになっていきます。そこまで価値観の変化を体験しています。

ヨハネ**3:3**「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』」その次**5**節にはこうあります。「**3:5** イエスは答えられた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。』」

入る事が出来ない以前の問題は見る事さえ出来ません。つまり、神様は本当に存在しているかどうか分からないなら、当然、神の国とその義の為に第一に生きる事も出来ません。先ほどのコリント第二**5:17**の「見よ、すべてが新しくなりました。」というのは、生活習慣など全部一気に完全に変わる事ではないけれども、価値観がすべて新しくなってから、それに従って行けば行くほど生活習慣なども変わって行きます。

イエス様は唯一人間の心を作り変える事が出来る人類の救い主です。

使徒4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

2. 神様に対する飢え渴きの逆説

ヨハネ6:35-37「イエスは言われた。『わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。6:36 しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。6:37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。』」

イエス様を信じたい思いがあれば自分からその思いが出ているのではなくて、父なる神様から与えられているから、イエス様に来たら、必ず、受け入れられます。イエス様に拒否される事は絶対にありません。そしてイエス様に与えられる命は神様の永遠の命だから、心は完全に満たされます。それによってこの世の物は与える事が出来ない平安を体験します。その結果はイエス様がここで言っている「決して飢える事がなく、決して渴く事はありません。」この世の物に対する飢え渴きは二度と体験しない程価値観が変わります。イエス様を信じる前にはこれがなければ生きて行けないと思っていた物に対してどうでもいいと思うようになります。信じる前にどうでも思っていた聖書とか、教会の交わりとかを、何よりももっと欲しくなります。

ヨハネ4:13-14「イエスは答えて言われた。『この水を飲む者はだれでも、また渴きます。4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。』」

ここでもイエス様は「わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴く事はありません。」と語っています。イエス様がいのちのパンの話をした男達と、ここでいのちの水の話をしている女性と大きい共通点がありました。彼らはこの世の物を熱心に求めていました。イエス様は両者にこの世の物に対する飢え渴きを決して二度とないようにわたしはもっと素晴らしいあなたの心を完全に満たす事が出来る永遠のいのちを与えますよと語っています。それを味わう人はこの世の物に対する飢え渴きから解放されて新しい神様に対する飢え渴きを与えられます。と言うのは、イエス様の決して二度と渴く事がない、二度と飢える事がない、という約束は、今日の義に飢え渴いている人は幸いだという個所と矛盾しているわけではなくて逆説です。

残念ながら、2,000年前と今の人間はこの点で変わっていません。この世の物で必死に心の飢え渴きを満たそうとしていますが、いくらこの世の物を体験しても、それで心は満たされない事実が増々分かるだけで、心の平安は見つからないままです。その代わりに薬やアルコールや何かに依存して生きる事になってしまう人が多いです。この世の物に対する飢え渴きによって奴隷になってしまうだけですが、イエス様が与える神様に対する飢え渴きによって逆に解放されます。義に飢え渴いている人は神の国と神の義を第一に求めている人です。満たされている事によって解放されます。逆にその健全な飢え渴きを与えられる事によって解放されます。それが逆節ですね。

旧約聖書のモーセは同じような逆説を体験しました。

出エジプト3:3-5

モーセは言った。「なぜ柴が燃えていかないのか、あちらへ行ってこの大いなる光景を見ることにしよう。」3:4 主は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ。」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります。」と答えた。3:5 神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」

イエス様は信者の一人一人の心の中に聖霊によって、神様の命によって満たして下さいます。信者の心と体は神様の住む宮になっています。

ヨハネ7:38-39「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊

のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

神様の命で満たされても飢え渴きは消えて行かないのです。満たされながら神様に対する飢え渴きを持ち続けています。

3. 神様の満たしの祝福

マタイ6:33「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

「そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」神様の命によって心が満たされた上に、さらにこの世で生きる為に必要な物も加えて与えられます。これはすべてのイエス様の信者に与えられている素晴らしい約束です。真実として実体験で知る為には条件があります。神の国と神の義を第一に求めている時に実体験として知ることが出来ます。

先週も少しだけ触れましたが、この約束によって心配や恐れを超えて生きる事が出来る祝福です。今の時代は日本だけではなくて世界中の多くの人は増々心配や恐れによって心が支配されてしまっています。

山上の垂訓の三分の一程、マタイ6章の全体で、イエス様は自分の信者がすべての心配と恐れに超えて生きる生き方を教えて下さっています。祈り方について教えた上に19節からこの世の物の為に生きるのではなくて神の国と神の義の為に生きる教えが始まります。

マタイ6:19-21「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。6:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」

イエス様の教えはご利益宗教の教えではありません。神様を信じて私を信じたら、楽で贅沢な生き方が出来るという約束をしていません。イエス様も初代の教会の信者達も贅沢な生き方をしていません。逆に大変な困難の中で過ごしているのに平安と喜びで満たされて、それらのものを超えてイエス様の勝利の中で生きていました。

ヨハネの福音書6:33「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

イエス様は天においても地においても、すべての権威を持って私達のすべての必要を満たして下さいます。特にイエス様の大宣教命令に従って他の人を弟子にする働きに参加する時に増々これを体験するようになります。皆さんの役目や賜物は違ってても参加出来ます。まず、人の救いの為に祈る事から始まって、そうすれば自分の役目が少しずつ見えて来ます。従って行けば行くほどイエス様の全ての主権を体験します。

まとめ

第一テモテ6:6-7「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。」

先週の続きに、私達はイエス様の柔和な姿に習って、祈りによってすべてを正しく裁かれる方にお任せする事によって神様の主権を体験で知ったら、すべての心配と恐れを超えた生き方が出来ます。理屈的に知っても、心配や恐れを超えた生き方が出来ません。もちろん、常に心配や恐れに陥るような誘惑があります。それは消える事はありませんが、それを超えて生きる為に神の国と神の義を第一に求める生き方が必要です。イエス様はこの祝福を全ての信者の為に与えて下さっています。この世の為に、次の世の為に、すべての必要を満たして下さいする唯一の救い主です。